
◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

平成9年に臨床教育実践研究センターが発足して以来、今年度で20年の節目を迎えました。このたびは当センター紀要第20号をお届けいたしますとともに、平素よりご指導、ご支援をいただいております皆様方のお力添えに、深く感謝申し上げます。

今号より、本紀要は冊子体での配布を取り止め、京都大学のリポジトリを用いてオンライン公開することといたしました。これにより、当センターの活動や研究成果について、より多くの方々に知って頂くことができれば幸いです。

また今号においては、多様な特集を組むことができました。一つ目の特集では、昨年度に開催しました、当センター主催の第19回リカレント教育講座のシンポジウム抄録を掲載しております。第19回のテーマは、「『心の教育』を考えるーいじめへの対応と心のケアー」であり、多くの方々のご参加を頂きました。二つ目の特集は「臨床心理学における倫理」ということで、研究だけでなく実践が重視される臨床心理学に特有の倫理的な問題についての論文を掲載しております。三つ目の特集では、精神分析家のクラウス・コッヒャー先生をお招きして行われた講演会の抄録を掲載しております。先生には、非常に貴重な資料の掲載をお認め頂きまして、ここに深く御礼申し上げます。

研究論文では、院生が自主的に行っている研究会による、3本立ての論文が掲載されています。京都大学の臨床心理学教室の院生は、興味関心のある分野を同じくするものどうしで集まり、多様な研究活動を自主的に行っています。今号の論文から、その多様な活動の一端を感じていただければ幸いに存じます。

さらに、当センターの活動報告として、公開講座抄録「複雑系科学からみたところーユング心理学と生態学における複雑性ー」を掲載しております。こちらは、ユング派分析家で元国際分析心理学会会長のジョセフ・キャンブレイ先生による公開講座の講演内容になります。複雑系科学とユング派心理学の接点、そして臨床実践との結びつきについて、非常に刺激的なお話を頂きました。

当センターも設立から20年目となりますが、当初から変わらずにあるのは、心理教育相談室での活動を基礎に置き、日々の臨床実践を大切にするという姿勢であるように思います。近年、心理臨床を取り巻く環境は大きな変化を迎えつつあります。そうした状況の中でも、目の前の実践を大切に、真摯に取り組んでいく姿勢を保ち続けていきたいと思っております。

皆様方には、本紀要について忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸甚に存じます。今後とも当センターにご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター編集委員会

時 岡 良 太